

今期、売上高120億円目標

フアブ向け加工・製作強化



三木社長

桂スチール

桂スチール(本社||兵庫県姫路市、三木桂吾社長)は今期(2018年9月期)、売上高で120億円程度と前期比10億円程度増、経常利益は前期並みの黒字確保を目指す。BH製作量は年間7万5000ト程度と同5%程度増を計画している。首都圏を中心とした大型物件でのBHの受注を強化し、生産も工場

の省力化・効率化を図る。溶断重量もBH同様に、前期比5%程度増の年間7万6000ト(17万7000トを予定。自社のBH向けが主体だが、フアブ向けの切板も数量の維持・拡大を図る。同社は大手BH業者で、生産拠点としては岡山第2工場、岡山第3工場、岡山第5工場、玉野工場、姫路工場を持ち、建築向けの切板、BH・BT製作、これら製品の一・二次加工、鉄構部材の製作を手掛けている。

前期(2017年9月期)は売上高が110億円と16年9月期比約10%増、経常利益は数字を明らかにしていないが、同大幅増となった。主力のBHは製作量が年間7万1300トと大きく増えたことに加え、単価も回復。また、設備の自動化、省力化を進め、生産効率を引き上げることが利益に寄与した。

今期は首都圏の大型オフィスビル、再開発案件、地方の空港関連、ホテル関連などの大型案件、さらにはBHでも大型物、異形物など同業他社ができないサイスの受注・製作を増やしていく。一方、自社のBH向け以外の切板、鉄構部材製作も受注を強化し、全体加工数量の拡大に貢献させ

る。この一環として、営業人員も増やす。現在、営業人員は役員を含めて6人体制だが、今後は2-3人程度増やし、首都圏案件の対応強化に備える計画。